

授業科目	*看護総合演習(前田由)				実務家教員担当科目	○					
単位	1.	履修	必修	開講年次	4	開講時期	通年				
担当教員	前田 由紀子										
授業概要	看護実践及び専門領域上の自己の課題を探求するために、主体的に既習の知識・技術の統合を図りながら、課題への適切な介入の方法を討議・検討し、実習計画を立案する。看護総合実習での成果を基に、レポートを作成し、実習における実践を考察する。発表要約を作成し、グループ間で発表し、意見交換を行う。(看護総合演習は看護総合実習の事前事後演習として位置づける) 授業は専門領域における実務家教員が各自グループメンバーの課題を踏まえ演習を進める。										
授業形態	ゼミごと(6-7名の小グループ)で運営する。担当教員と調整しながら学生たちが主体的に学習活動を展開する。				授業方法						
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心ある領域における知識・技術を深め、自己の課題について考えることができる。 2. 自己の課題を基に、看護総合実習の計画立案ができる。 3. 看護総合実習の成果を基に、テーマに沿ってレポートを作成し、看護及び専門領域を探求する。 4. 発表要約をもとに、グループ間で発表を行い、意見交換ができる 										
理想的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心ある領域における知識・技術を積極的・主体的に深めるとともに、自己の課題について、グループ間で討議・検討し、広い視野から考えることができる。 2. 課題を基にした看護総合実習の計画立案では、関連する文献を読み込み、根拠に基づく実践を志向することができる。 3. レポート作成においては、看護総合実習の成果を基に、可能な限り先行研究を調べ、検討し、客観的・科学的に看護・教育を考察する。 4. 発表要約を作成し、わかりやすく効果的な発表を行い、積極的に意見交換を行うことができる。 										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合(数値)				備考						
試験											
小テスト											
レポート	60%										
発表(口頭、プレゼンテーション)	20%										
レポート外の提出物	20%										
その他											
カリキュラムマップ(該当DP)・ナンバリング											
DP1	-	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	NU31407J
学習課題(予習・復習)										1回の学習目安(時間)	
学生が主体的に課題を探索し学習する。										1	
授業計画											
第1回	1.オリエンテーション(各担当教員)										

	<p>演習の概要について説明し、その履修方法や演習の目的、達成の目安、評価の内容と方法を説明する。</p> <p>2. 看護総合演習は看護総合実習の事前事後演習として位置づけ、看護総合実習に向けて学生個々の課題（事例）を明確にする。学生は既習の専門知識の整理・統合を図りながら、課題（事例）への適切な介入および必要な看護技術について、確認し熟達を図る。</p> <p>3. 課題（事例）解決に向けて、看護総合実習の実習計画書を立案する。</p> <p>4. 看護総合実習の成果を基に、レポートを作成する。グループ間で発表を行い、意見交換し、看護総合実習における実践を考察する。</p>
<p>テキスト</p>	<p>指定なし。必要に応じてプリントを配布する。</p>
<p>参考図書・教材 ／データ ベース・ 雑誌等の 紹介</p>	<p>課題に応じて主体的に文献を探索する。必要があれば、担当教員が紹介する。</p>
<p>課題に対するフィードバックの方法</p>	<p>評価については、一連のプロセスにおいて演習に対する各自のテーマ設定や取り組み姿勢も含めて最終評価し、個別にフィードバックします。</p>
<p>学生へのメッセージ・コメント</p>	<p>これまでの臨地実習・演習における看護実践を振り返り、必要な事項は学習しておくこと。学習活動は、すべて学生が主体的に計画することを原則としています。自ら積極的に学習し、グループ間で課題を共有し、討議・検討を進めていただきたい。</p> <p>社会に出て活躍できる看護職者としての看護実践能力、人間力を養うために、自己の課題に向き合い、主体的な学習を期待します。</p>